

令和6年度（第3回）社会教育委員会議 会議録

- 1 開催日時 令和6年8月20日（火） 14時00分～16時20分
 - 2 開催場所 両荘公民館第1ホール、第2ホール
 - 3 出席委員 大山委員、坂田委員、岡本委員、後藤委員、岸本委員、菅原委員、久保田委員、徳田委員、小倉委員、山尾委員、高橋委員（11名）
 - 4 欠席委員 日置委員、兼子委員
 - 5 出席職員 小南教育長、松尾教育指導部長、杉本教育指導部次長、井上教育指導部参事、今津教育指導部参事、真鍋教育指導部参事、岡本社会教育課長、久保田加古川西公民館長、青山両荘公民館長、福島氷丘公民館長、岡本学校教育課長、神吉両荘みらい学園校長、社会教育課（畑副課長、西森担当副課長（兼）学校教育課担当副課長、土屋地域教育係長、今井主査、本田主事）
 - 6 傍聴者 0名
 - 7 議事要旨
- 開会 14時00分
委員長あいさつ、教育長あいさつ

（協議事項）

（1）社会教育と学校教育の連携について

（両荘みらい学園、両荘公民館より説明）

委員

夏休み中に図書館に行く場合は、学校ではなく公民館の中を歩いていくということか。

両荘公民館長

そのとおりである。

委員

日ごろ公民館に足を運ばなかった人も、図書館ができたことで、いろんな人に公民館を見ていただけるようになったと思う。

委員

学校図書館を地域開放する取り組みについて、貸出期間を1週間で3冊という設定にしているなど、他の市内の図書館とは異なる設定としていることについて、利便性や不便さに関する意見が出ているか。また、登録者数は今年度でどのくらい想定しているのか。今の現状についてお伺いしたい。

社会教育課担当副課長

現在の両荘みらい学園学校図書館の地域開放の利用者登録数は、7月末時点で854名となっており、そのうち約300名は、両荘みらい学園の在校生となっている。

貸出冊数、貸出期間については、みらい学園学校図書館の地域開放用図書が開館時に約13,000冊であること、また、あくまで学校図書館であるため、2階の図書を授業用に貸し出すこと等も考慮し、1人3冊1週間の貸出とさせていただいた。

一方、市内の4つの公共図書館については、合計蔵書数が約80万冊あり、4館それぞれの蔵書数に差はあるが、毎日回送便が運行しているため、10冊2週間の貸出を行って

も、図書館の棚から本がなくなることはない。

やはり、1週間では読み切れないとの声も多く寄せられているため、貸出期間の延長については今後の課題として検討しているところである。

委員

本日、見学させていただいて、この地域と両荘みらい学園の連携が非常に素晴らしいと思った。地域性が強く、中学校の部活動の移行など、先駆けた取り組みが進んでいるのは大変良いことだと思う。特に、この地区の環境は非常に恵まれており、他の地域にも広がれば良いが、現状では関係性や状況により難しい部分もある。

例えば、図書館や図書室の充実に関して、加古川市の他の中学校と比べると、ここまで整備されているところはあまり見られない。特に、中学生にとっては読書感想文の課題が負担となることが多く、このような充実した環境がもっと広まれば良いと感じる。

クラブ活動についても、小中学生を対象とした活動が社会教育の中で非常に重要な役割を果たすと考えている。学校教育はもちろん大切だが、これからの社会教育も同様に重要である。

例えば、体験型クラブなどを設け、早期から子どもたちに様々な体験をさせることは大切であると思う。今まではクラブ活動に参加する子どもはごく少数だが、こうした活動が日常的に行われれば、社会教育の一環として非常に効果があると思う。

地域の人々が放課後に指導する形での活動も非常に有意義だと思う。例えば、中学生の外部コーチのように、小学生にも地域から指導者を招いて指導を行うことで、子どもたちの成長に繋がると考えている。私もチャレンジクラブのボランティア指導をしており、社会教育の大切さを実感しているが、こうした取り組みはまだまだ難しい面もある。それでも、地域の力を借りながら、小学生から社会教育の一環として進めていける環境を整えれば素晴らしいと感じる。

両荘みらい学園はスポーツだけでなく、文化系の活動も積極的に取り入れられており、地域のモデルケースとなり得る施設だと思う。こうした取り組みが広がり、子どもたちが積極的に参加したいと思うような環境を作ることが大切である。

また、小中学生に対しては、教育の中で徹底して社会性や公共心を教えることも重要である。普段の教育では難しい部分もあるが、放課後などの社会教育の中で、きちんとしたマナーやルールを教えることが求められる。

このような活動が継続され、さらに発展していくことを期待している。

委員

両荘みらい学園のクラブ活動の移行状況や市内の学校図書館の特色ある取り組みがあればお聞かせいただきたい。

学校教育課担当副課長

市内の中学校の図書室については、現在、空調設備が整っていない学校も多く、環境的に十分ではないという意見を多くいただいている。

両荘みらい学園学校図書館で勤務する地域開放業務を担う社会教育課の会計年度任用職員は全員、学校教育課の学校司書としての業務も兼務しているため、公共図書館とも連携しながら、各学校図書館にどのような支援ができるかを模索しているところである。

両荘みらい学園校長

両荘みらい学園の小学校のクラブ活動の特色として、中学校の部活動に参加できるシステムを導入している。また、部活動に外部技術指導者が3人参画いただいております。子どもたちが地域の方々とのつながりを持ちながら活動できる環境がある。来年度は、地域の方々に協力いただきながら、日本文化体験クラブをなんとか実現していきたいと考えている。

委員

頑張っている中学生の様子を小学生が見ているので、うまく繋がっていけば良いと思う。公民館での文化的な活動が減少しているという現状があり、早く指導者を確保することが大切だと思う。

委員

見学させていただき、非常に良いものが出来上がったと感じた。この地域は従来から地域性が強い場所であり、小学校と生徒数が少ない中学校が一体となる形で、うまくできたと感じている。また、公民館が新しく建設され、図書館も設置されたが、図書館の活用に関して、課題が残っていると思う。

学校の統廃合に関して、私自身の地域もここ数年考えてきたが、1クラスの規模だとマイナス面が大きいと思うため、教育委員会とも真剣に話し合いをし、早期に結論を出し、形にしていく必要があると考える。ただ、この問題は単純に解決できるものではなく、地域全体が協力して取り組んでいく必要があると思う。

委員

志方地区では、委員会を立ち上げ、検討を行っている。市内の何方所かの校区で直面している。両荘みらい学園の取り組みが注目される。違う地域でどんなことができるかいいヒントになると思うので、引き続き取り組んでいただきたい。

委員

本日、現地での視察およびお話を通じ、素晴らしい取り組みが開始されていることに感銘を受けた。特に「グローバル人材の育成」を目指すというコンセプトには大いに期待している。この地域には豊かな環境が整っており、市民センターや公民館、小中学校が一体の場所に集約されていることから、地域の拠点としての機能も果たしている。地域の特性を活かし、防災や地域の活性化も視野に入れながら、子どもたちと共に考えていくことが重要である。

私が、海外で「日本の特色」について問われた際に、自分の知識不足を痛感した経験がある。子どもたちが地域やふるさとに誇りを持ち、他者に説明できるような教育が求められる。この地域との連携を通じ、ふるさとを愛し、学ぶ機会が設けられることを期待している。

また、取り組みは始まったばかりであるが、長期的な視点での成果が求められる。運営の中で課題や改善の余地も出てくることが予想されるが、今後の課題についてお伺いしたい。

両荘みらい学園校長

現在までに挙げられている課題として、小中学校の時間割やルールの違いにより、子どもたちがストレスを感じるのではないかと考える。

また、地域や保護者の方々からも9年制への移行の戸惑いを感じており、今後さらに説明とサポートが求められる状況である。

両荘公民館長

地域の多くの方々、子どもたちのために支援を行いたいと考えているが、一方でネガティブな意見を持つ方も存在する。普段から地域活動や公民館の登録団体として積極的に活動している人々の中には、自分たちが楽しみたいという思いを持たれる方もおられ、子どもたちへ積極的に関わる意識がまだ十分に育っていないケースも見られる。

子どもたちを地域みんなで育てていこうという雰囲気醸成していく必要があると思う。

委員

私たちは、広がりのある小学校・中学校生活を長年にわたって評価されてきた。地域のつながりが強まる中、今後さらにこの連携を深めていくべきである。

複合化され、地域と学校とのつながりがより強くなったのではないかと思う。それを高めていくことが今後の課題であると思う。

P T Aや親父の会の活動を行っていた際、こどもと保護者が一緒になって、創造的な体験活動を行っていた。このような活動には、多様なスキルを持つ保護者も関わっており、公民館などの活動に参加していただくことができるよう、地域の人材を掘り起こしていくことが大切であると思う。

両荘みらい学園校長

3校のP T Aと一緒に活動していくことになり、様々な文化があり、話し合いが難航したと聞いている。P T Aにおいて議論を重ね、今年度、当初は加入率が伸び悩んだが、積極的な呼びかけにより加入率が向上している。みんなができる活動、保護者が互いに成長を促し合う活動、学校を支える活動をどのように取り組むか模索している現状である。

委員

小学生から高齢者までが集い、共に学び、成長でき、素晴らしい施設であると感じた。学校施設の地域開放も含め、地域の生涯学習の拠点として、地域全体の活性化につながるのではないかと期待している。

今後、この施設をどのように発展させ、地域をどのように活性化させていくかという明確なビジョンが求められている。アイデアと熱意を持った人々が地域を支えていくのではないかと思う。

学校教育は、20年後の子供たちの生き方が現在の教育の成果として現れるとされている。こうして育った子供たちが将来、地域に戻り、地域の発展に貢献することで、地域の成長が持続していく好循環が生まれるのではないかと考える。

委員

社会福祉とは、社会が幸せになることであり、そのためには多様な取り組みが必要となる。

最近、小学校の給食のナプキンを個人で購入することとなり、以前のようにアイロンをかけて次の人に渡す習慣が失われ、コミュニティの希薄化を感じている。

私のこどもが通う学校は、12年間の一貫教育を行っており、同じ学校のこどもたちは我が子のように感じる。このように地域全体で子供を育てる環境があることは素晴らしいと

考える。また、この公民館は、親と子が活動する中で地域住民も関わり、共に学び合える場となっており、地域の人々の背中が、こどもたちの模範となる効果もあるのではないかと感じている。この公民館が地域の交流拠点となり、子供たちが隣近所の大人たちから学べる環境を築いていくことを期待している。

この公民館と小学校が地域の連携拠点となり、社会福祉のモデル地域として発展することを期待している。

委員

PTA の役員をやっていた際に、毎年、あんどん祭りという行事があった。各学年の PTA 役員が協力して行うものだが、コロナ禍で行事が中止となり、どのようにして準備していたかを知る人がいなくなっており、こどもたちが楽しみにしている行事がなくなってしまうにしていきたいと思う。

(報告事項)

- (1) 兵庫県社会教育委員協議会総会・研修会の参加報告について
- (2) 東播磨・北播磨地区社会教育委員協議会総会・研修会の参加報告について

(その他)

- 閉会 16 時 20 分
副委員長あいさつ

以上